夏休み特別版！まちの歴史を知ろう

まちのたから 発見

蒲生家とつながりの深い武将

戦国大名「関 一政」と旗本「関 氏盛」

わたしたちの町、滋賀県の日野町と鳥取県の日野町にゆかりのある「関家」をご存じですか。

●伊勢の関家と蒲生家

関家は、中世、伊勢国（現在の三重県北中部）北部、亀山を本拠として鈴鹿郡一帯を治めていた武士です。平清盛を先祖とするため旗は赤色で、平家が文様として多用したアゲハチョウを家紋としています。

関家と蒲生家の結びつきは深く、蒲生氏郷の姉妹（瑞応院）が、関一政の妻となるなど親せき関係にありました。

▲関一政像（正受院蔵）

●関一政、歴史の表舞台に

幼いころに出家していた関一政（生年不詳～寛永2年没）は、天正10（1582）年、本能寺の変後に還俗して関家を継ぎました。そして、羽柴（豊臣）秀吉に従い、天正12（1584）年には、伊勢に国替えとなった蒲生氏郷の与力（合戦などの際にサポートする大名・軍勢）となりました。

さらに天正18（1590）年には氏郷とともに会津に移り、蒲生軍の主力として各地の合戦で活躍しました。

●蒲生氏郷亡き後の関家

氏郷亡き後は、独立した大名となり、慶長15（1610）年に伯耆（現在の鳥取県西部）日野の大名となりました。

日野の黒坂において一政は黒坂城の築城や城下町の整備などに尽力しましたが、元和4（1618）年に家中の争いを理由に領地を没収されました。

●伯耆日野から近江日野へ

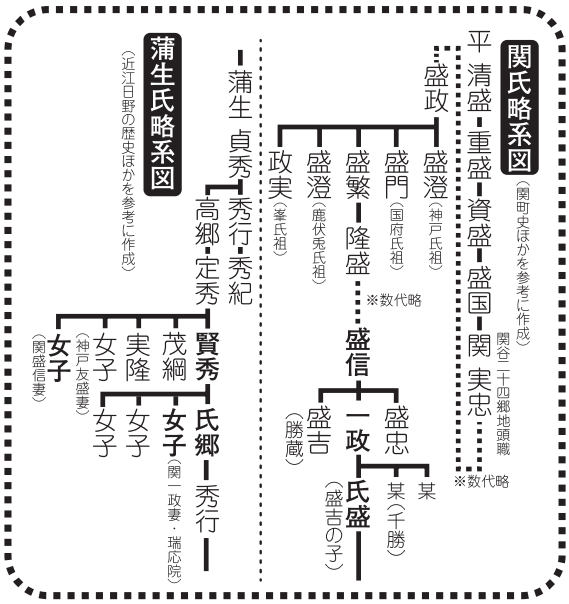
大名ではなくなりましたが、関家は養子の氏盛（生年不詳～延宝2年没）により、近江中山ほか5千石の旗本として存続することとなりました。

氏盛は、幕府の重要な建物である久能山東照宮（徳川家康の最初の墓所）などの寺社や御殿、朝鮮通信使の宿舎などの修理や造営を命じられ、確実にやり遂げていたことが記録に残っています。

●歴史の不思議

中世、蒲生家と縁の深かった関家が、時を経て日野の中山に来たことは偶然でしょうか。

また、関家が日野に来た2年後、仁正寺藩を開いた市橋家は、関一政が伯耆の大名となったのと同日、隣地の大名となりました。これも歴史の偶然なのでしょうか。



▲瑞応院像（関一政の妻・蒲生氏郷の姉妹）（正受院蔵）